

医学類におけるカリキュラムアンケートの活用について クリニカルクラクシッ[®]に関するアンケート実施支援を通して

a) 医学系技術室 PCME (カリキュラム担当) ・ b) 医学支援室 PCME (カリキュラム担当)
小野瀬 恵里子 a)、廣瀬 美鈴 b)、菅江 則子 a)

概要

医学類では、カリキュラムなどの学業に関して学生の意見・要望を知り、カリキュラム改善、医学教育研究などに活用することを目的として、毎年、各学年末・卒業時にカリキュラムアンケートを実施している。アンケート結果を有効に活用するための我々の役割と気付かされたことについて、クリニカルクラクシッ[®]アンケートを中心に報告する。

クリニカルクラクシッ (CC)

CCは、学生が診療チームに加わり、チームの一員として診療業務を分担しながら臨床能力や知識を身につける臨床実習である。医学知識や医療手技のみばかりではなく、医師としての態度や価値観も学ぶ。外来診察に同席し問診を实践、診察の補助業務を体験、入院患者様の回診へ参加、治療方針の説明の同席、診療録の記載などを行う。外科領域では手術にも参加する。

カリキュラムアンケートに関わる PCME の業務と工夫点

アンケート作成支援

- ・ アンケート原案作成のための資料作成
- ・ 関係教員への連絡・確認
- ・ アンケート原稿の修正・印刷



アンケートの実施・回収・集計

- ・ 責任ある回答を得る工夫 (記名式)
- ・ アンケート用紙の配布・回収 (事務職員との連携により回収率の向上)
- ・ データー入力・集計・グラフ化 (経年的・学年別変化など比較しやすい様にグラフ作成に工夫をする。)
- ・ 問題点や学生の要望・意見を把握しやすい形。(膨大なコメントはカテゴリー別にまとめる)

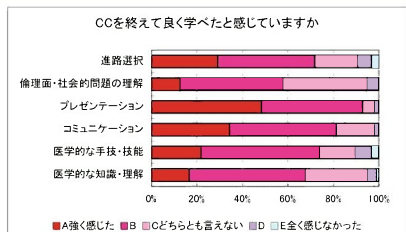
アンケートの報告・フィードバック

- ・ 各種会議の目的に応じて会議資料を作成
- ・ 指導医へのフィードバック資料の作成と送付 (関係者の目に届く様に、責任者の目に留まる様にフィードバックのまとめ方・送付方法を工夫する。)



CC アンケートの質問内容と結果の例

CC カリキュラム・指導体制・実習内容に対する学生からの評価、臨床病理検討会 (CPC)、学年末総合試験、Best Teacher などの質問で構成されている。



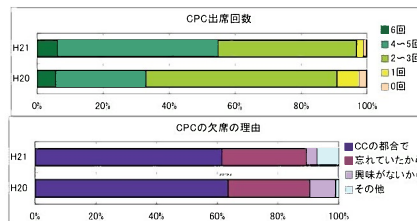
診療科の指導体制・内容の評価のコメント例

学生の指導に多くの時間を割いて下さった。
自分の問診中の姿をビデオで見るとはとても良い経験でした。
外来実習でいろいろとフィードバックしていただけたのは良かったです。
処置のお手伝いをたくさんさせて頂いて良かったです。
もう少し、治療デザインをする過程を見かけた。
術後管理などをもっと学びたかった。

CCにおけるBest Teacherへのコメント例

患者さん第一の医療に感心しました。
仕事に臨む姿勢等、将来のロールモデルとなる先生でした。
学生の面倒を快く見て下さり、多くのレクチャーをして下さった。
学生に教えようとする意気込みが深く伝わってくる。
先生の様に生き生きと仕事をする医者になりたいと心から思わせてくれた。

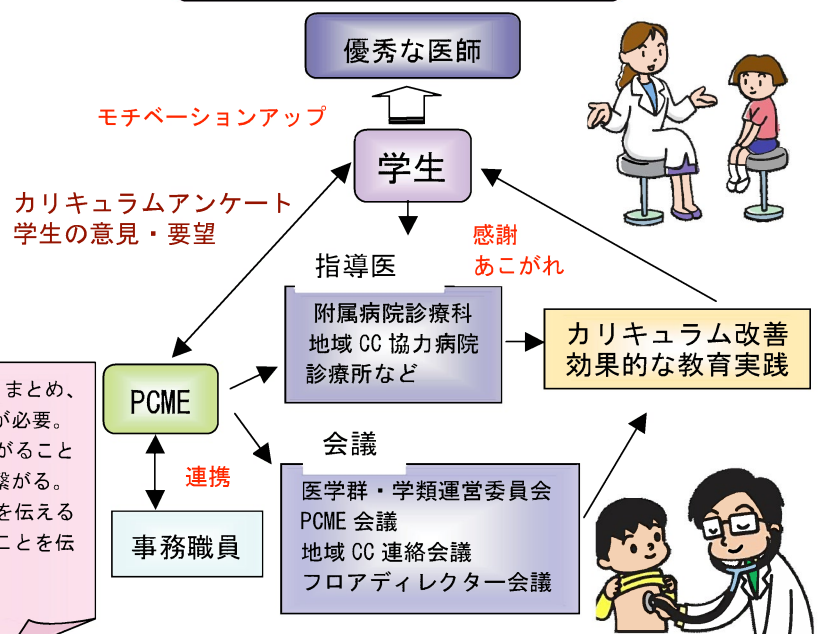
アンケートの結果を活用した改善例 (CPC 出席率の向上)



CPC 出席率が低い理由①CCの関係、
②忘れてしまうことが分かった。

- 1) CPC 開始時間を遅らせる。
- 2) 指導教員へ CPC 開催通知を出す。
- 3) 学生の目に留まりやすい場所へポスターを掲示する。

カリキュラムアンケートの流れ



カリキュラムアンケートに関する考察

- 1) 結果は教員のニーズに合わせて、経年変化・普遍性を分かりやすくまとめ、資料作りを担当したからこそ気付いた点を効果的に報告することが必要。
- 2) 学生の意見や要望が教員に理解されて、カリキュラム改善に繋がることは、学生の学習へのモチベーションを高め、効果的な教育実践に繋がる。
- 3) 学生がカリキュラムアンケートへの回答する意義として、要望を伝える手段としてばかりではなく、指導医への感謝を伝える意味もあることを伝え、その態度を育てる支援をして行くことが必要。
- 4) 事務職員との連携・協力体制を継続することが重要。